

CAMPUS HEALTH



第 51 号
平成27年3月24日発行
京 都 教 育 大 学
保 健 管 理 セ ン タ ー

健康というとみなさんは何をイメージしますか？ 風邪をひかない怪我をしないとといったことから、睡眠食欲など生活習慣や、健全さといったものもあるかもしれませんね。体の健康とこころの健康は連動しているところもあります。今回はこころの健康をテーマに、私の授業や研究とからめてお話ししたいと思います。

新年度の健康診断で自分の健康をチェックするように、こころの健康を調べる方法に心理検査があります。検査をする目的は「悪いところ」を見つけることだけではなく、「自分の体 / こころ」に関心をもつ機会になることが大事な意味をもっているといえるでしょう。心理検査には、知能や発達を測定したりうつや不安などの健康度を調べたりするものだけではなく、結果の良い悪いにとらわれないその人らしさを知るためのものまでさまざまです。私が学部で担当している「精神検査法演習」の授業では、そういった心理検査のいくつかを取り上げています。子どものこころを理解し援助するための心理検査を学ぶ以外にも、学生自身が検査を体験して自分自身で結果を解釈する実習も行います。私も学部時代に授業の実習で行った自分の心理検査の結果が、今では貴重な(?)資料となっています。といっても、自分の「主観」が検査を通して自分のこころのありようを理解するわけですから、もちろん解釈に偏りも出てきます。年月や研修を経て、自分自身の検査結果をあらためて見返した時に、「あれ…こんなはずでは?!」という体験をしてもらえたらなあと思っています。

ところで、以前「対人援助職のこころの健康」という特集に、こころの健康を曖昧さへの耐性という視点からとらえて論文を寄稿したことがあります。主な読者対象は臨床心理士やそれを目指す学生でしたが、対人援助職といえば教師もそうですね。カウンセリングでの「白黒つけたい」「ほどほどにできない」といったクライアント(相談者)の言葉は、学校や家庭などの日常、そして自分自身のこころに潜んでいる曖昧さのなかに居場所を見つけれない訴えと理解できます。クライアントが曖昧さをこなせるようになるには、それと関わる援助者自身の曖昧さへの耐性のもつ役割も大きく、そのためには援助者の抱えられる環境という舞台裏も重要になります。具体的には、相談できる同僚の存在や、スーパービジョン(カウンセリングの訓練指導を受けること)、教育分析(自分自身が治療を受けること)などです。これらのことは、曖昧さにも満ちた学校という日常のなかで、日々子どものこころと関わる教師にも通じるところがあるのではないのでしょうか。

平成27年度 学生定期健康診断の実施について

学校保健安全法に基づき、平成27年度の定期健康診断を実施します。

みなさんが自分の健康を保持・増進することは、自分のためだけでなく、机を並べる学友や実習先での児童・生徒等にも影響を及ぼすことになりかねませんので、必ず受診してください。

受診しなかった場合、介護等体験や就職手続等で必要となる健康診断証明書を大学では交付できません。（一部を受診しなかった場合や必要な再検査を受診しなかった場合も証明書は交付できません。自費により医療機関で受診のうえ証明書を取得することとなります。）特別な事情により下記日程で受診できない場合は、必ず事前に保健管理センターへ申し出てください。

注意事項

- ・服装は脱衣しやすいもので、無地のTシャツ（持参可）でレントゲン等を受診してください。
- ・コンタクトレンズや眼鏡を使用している場合は、必ず用意してください。
- ・筆記用具を持参してください。
- ・貴重品はポーチ等で持ち歩くなど必ず自己管理してください。
- ・現職教員等は職場の健康診断等を受診する事で本学の定期健康診断に代える事ができます。希望者は事前に保健管理センターに申し出てください。
- ・新入生(院生等を含む。)は、当日配布した「学生生活で困ったこと心配なことに関する質問票」を会場で記入のうえ、提出してください。同じく当日配布した「CMI健康調査表」、「学生記録カード」は4月6日(月)までに保健管理センターに提出してください。
- ・在学生についても「学生生活で困ったこと心配なことに関する質問票」を会場で記入のうえ提出してください。
- ・検査結果で再検査や精密検査が必要な場合は、個別に連絡します。
- ・健康診断証明書の発行は、データ処理作業の関係から5月以降になります。
- ・受診者は各自で健康診断証明書を発行し健康状態を確認してください。

実施日時及び対象（実施場所はF棟、財団法人京都微生物研究所に委託して実施します。）

4月2日(木)	8:30~11:30	学部新2回生と新4回生以上, 教育学研究科, 専攻科, の 男性
	13:00~16:30	同 女性
4月3日(金)	8:30~11:30	学部新1回生と新3回生, 連合教職実践研究科, 留学生(研究生等含), の 男性
	13:00~16:30	同 女性

科目等履修生、特別聴講学生、研究生等は対象ではありません。

キャンパスドクターの独り言

普通の中にまぎれた一番怖い人

保健管理センター 森 孝宏

高校1年生や大学1回生の女子が、「ヒトを殺してみたかった」として殺人をしたという報道に驚いています。今まで精神科の外来や病棟で出会った精神科の患者さんたちには、そういった言動を放つ人はいませんでした。精神科の患者さん達は、ナイーブで傷つきやすい傾向はありますが、こちらが危ない目に会うことはありませんでした。今から25年以上前になりますが、刑務所の法務技官医師として1年間檻の中の受刑者と関わっていたことがあります。受刑者の中には、採血を怖がるようなとても気の小さい人もいて驚きだったことを覚えています。連続強姦犯として服役している人にも家族の面会があったりして、塙の中での1年間の仕事でも怖い目には会ったことはありませんでした。

怖い目にあう体験は日常にはありませんでした。運転して道を探している時、言いがかりをつけてきた、たぶん普通の若者にはビビったことがあります。あまりの剣幕なので、警察を呼ぼうとしたら捨て台詞を吐いて、去って行ってしまいました。

そういえば精神科の外来でも、患者さんではなく、ある患者さんの配偶者に受付で怒鳴りまくられたことはあります。受付の人が被害者なのですが、そんな配偶者と一緒にいたら、病気にもなるなあと患者さんに同情したものです。

前任校の大学で、7年間の勤務の中で、1人の女子学生には怖い目に会いました。いわゆる「自己愛性パーソナリティ障害」のひとつですが、精神疾患ではないので、見た目では区別はつきません、普通の人です。万能感あふれる誇大自己と、自己権利の過剰な主張、気に入らなければどこへでも訴える好訴性で、振り回されました。本学では現在まで、恐ろしい「自己愛性パーソナリティ障害」の学生さんとは出会っていません。

今一番怖いと思っているのは、「反社会性パーソナリティ障害」のある、無職の社会的ひきこもり女性です。男性に多い反社会性ですが、初めての女性例です。男性だと対応にも目処はたつのですが、女性は難しいと思っています。著しい善悪判断の欠如や道徳観の欠如と検閲のない激しい衝動性で、刑務所の中にもめったにいない、イメージ的には野良猫に近い精神構造をしているように見えます。ひきこもりですので、社会に直接的に被害はないと思われるのですが、それでも怖いのです。誤解のないように付け加えますが、ひきこもりが危ないのではありません。反社会性が危ないのです。

いろいろな人と出会う援助職ですが、こんな怖い人は稀の中の稀な話です。人と知り合う感動を味わうことの方が多くははずです。多くの感動に出会うため、万が一の怖さをも想定しながら、社会的関わりの中で活動していかなければなりません。原因は明らかではありませんが、生きづらい現代社会なのかもしれません。あるいはトマ・ピケティ理論の $r > g$ が、もしかするとその原因の1つになるのでしょうか。もっと勉強します。